

ビジネス日本語能力テストの出題傾向と対策の探求  
 ON THE BUSINESS JAPANESE PROFICIENCY TEST: AN EXPLORATION INTO  
 THE TENDENCY IN ITS QUESTION MAKING IN ORDER TO SUGGEST SOME  
 PLAUSIBLE MEASURES TO DEAL WITH IT

尾崎学, 開南大学  
 Manabu Ozaki, Kainan University

## 1. はじめに

経済産業省と文部科学省による留学生に対する人材育成プログラム「アジア人材資金構想」が 2007 年から 2013 年にかけて日本国内で実施された。2008 年には文部科学省が「2020 年をめどに留学生受け入れ 30 万人を目指す」という「留学生 30 万人計画」を策定している。これを受けて、多くの大学では留学生のための就職説明会や就職支援などに取り組んでいて、日本企業で働くためのビジネス日本語の授業が開講されるようになった。採用時に日本語能力試験 (JLPT) のほか、近年、ビジネス日本語能力を測定する BJT ビジネス日本語能力テストを利用する企業も増えてきている (赤木他: 2013)。

## 2. ビジネス日本語能力テストの先行研究

### 2. 1 「BJT ビジネス日本語能力テスト」の研究

日本での BJT の研究では、2012 年に大学に対して行ったビジネス日本語教育の実施状況調査によると、BJT を活用している大学は 15 校に対して、今後活用したいと回答した大学は 26 校であり 11 校増加している (BJT 公式 HP 調査結果レポート)。ここ数年では共同研究グループによる、ビジネス場面でのコミュニケーション力を判定するためのビジネス日本語コンピュータ適応型の測定テスト (BJ-CAT) の開発が行われている (赤木他: 2013)、(赤木他: 2015a)、(赤木他: 2015b)、(赤木他: 2016)

台湾での研究は、沈 (2008) が BJT の重要性を指摘したが、過去の問題紹介とその概要を記すに止まり、問題項目の詳細の分析や指導案には触れていない。黄 (2016) は BJT の出題問題を整理して分析し出題傾向をまとめた。また模擬問題集を用いて N1 レベルの学習者に回答を求め、学習者が意識した問題点について明らかにした。このように BJT に関する研究が日本では注目されているが、台湾では重要性があるとしながらも文献が少ない。また、BJT 問題そのものに照準を合わせてそれを分析し考察して問題点を指摘している内容はあるが、学習者を正答に導くための対策案を練り講じた研究の文献は見当たらない。そこで本稿では過去に出題された BJT 問題に焦点を当てて考察し、何を教えるかを探る。そのためには学習者がどこで躓くのかを調査する必要がある。

### 3. 類似問題の作成と指導の試み

次の1)から5)までの流れを経て対策ポイントを提言したい。1) BJTの過去問題集の出題項目を整理して考察する。これを基にして2) 類似問題を作成する。次に3) 聴解問題の録音をする。続いて4) 実際の授業の中で指導を試みる。最後に5) 解答結果から分析と考察を行い、問題点と改善点を抽出する。

#### 3. 1 実践授業とその概要

実践授業の目的は学習者が「日本語の語彙と表現」を修得することが正答に繋がるか否かを明らかにすることである。そのための案を練る。練るにあたっては「中国語の意味」と「日本語の語彙」を如何に結ぶかに焦点を置く。評価は実行した後の正答率の高まりとし、不正答の場合はその原因を探る。当該授業の手順は、まず①解答シートを配布してから、類似問題の1回目を聴く。この際にBJT出題方式に倣って、音声は1度だけ流して文字スクリプトを見ずに聴き取る。次に、②単語シートでポイントとなる中国語の語彙の意味を学習者に提示してその日本語の語彙を学習者が書く。ただし、効果を測るために単語シートはその場で配布して問題ごとに記述する。覚える時間は1～3分である。その後③スクリプト空欄記述シートを配って再度1回目を聴きながら空欄に書き込む。最後に、2回目を聴く。2回目は1回目の解答との違いを明らかにするため、設問の選択肢の順を換えて行う。

#### 3. 2 学習者の内訳

出席した学習者は25人で、内訳は5年生が2人、4年生が16人、3年生が7人である。日本語能力は、N1が3人、N2が14人、N3が3人、無が5人である。

### 4. 類似問題の内容と特徴の考察

本章では類似問題の模範例とその特徴について述べたい<sup>1</sup>。第1部は過去問題集にある写真または絵（イラスト）<sup>2</sup>を見てビジネス語彙を聴き取る問題である。

（1）描写問題（場面判断）：セクション1

テスト選択肢の正答は、「4」である。

1 部下が上司と打ち合わせをしています。

2 営業会議を開いています。

<sup>1</sup> 紙幅の制限で（2）表現力問題（話し方理解）：セクション2と（3）聴解問題（会話理解）：セクション3は、特徴だけを記す。次章も同様である。

<sup>2</sup> 学生に不必要な動揺を与えないように、試験と同じものを用いることにした。非言語的要素（視覚情報）については（加藤 2016：189）を参照されたい。

3 商品企画のプレゼンテーションをしています。

4 転勤のあいさつをしています。〔正答〕

形の整理は、【名詞】をしている・【動詞】ているのように「～ています」の形を基盤にしている。

特徴の考察は次のようであり、これを教師解説用とする。

このセクション1は「～ています」の形で構成されており、練習問題は4の「転勤」が正答である。この答えを導くためには、2人が立った状態で、部下が上司に頭を下げている描写を頼りにするのがポイントであるほかに、語彙レベルN1の「転勤」の意味理解が不可欠である。

実践授業は3.1の手順通りに行う。描写問題の選択肢作題では「～ています」の形を基盤にして4つの表現を設ける。なお、図1から図3までは自作PPT教材として授業で使用したものである。

#### ① 解答シート配付

自作PPT教材を使用して練習1（1回目）〔下記の図1写真〕を行う。1回目選択肢は、下記1～4の選択肢の文言は表示せずに音声のみを流す。

1 部下が上司と営業会議の準備をしています。

2 部下が上司に商品企画の説明をしています。

3 お客さまにプレゼンテーションをしています。

4 部下が上司に転勤のあいさつをしています。〔正答〕

#### ② 単語シート配付

単語シートを配って語彙の整理をする。「語彙レベル判定」から判るように選択問題には級外の語彙が使われているため「中国語の意味」を示して学習者が「日本語の語彙」を書き込むことで意味の理解を図る。なお、「語彙レベル判定」は教師の参考資料の控えとする。

中国語の意味	日本語の語彙	語彙レベル判定
下屬	部下	N 1
上司	上司	N 1
營業會議	営業会議	N 2／N 3〔営業〕・N 4〔会議〕
商品企劃	商品企画	N 2／N 3〔商品〕・N 1〔企画〕
客人	お客さま	級外〔お客〕・N 4〔さま〕

簡報	プレゼンテーション	級外
轉調	転勤	N 1
打招呼	あいさつ	N 4
商量/磋商	打ち合わせ	N 2 / N 3

語彙レベル：日本語読解学習支援システム(Reading Tutor)

自作 PPT 教材を使用して、練習 1（1 回目）〔下記の図 2 写真〕を行う。

### ③空欄記述シート配付

- 1 部下が上司と  の準備をしています。
- 2 部下が上司に  の説明をしています。
- 3 お客さまに  をしています。
- 4 部下が上司に  のあいさつをしています。〔正答〕

自作 PPT 教材を使用して、練習 1（2 回目）〔下記の図 3 写真〕を行う。2 回目選択肢は、下記 1～4 の選択肢の文言は表示せずに音声のみを流す。

- 1 部下が上司に転勤のあいさつをしています。〔正答〕
- 2 部下が上司に商品企画の説明をしています。
- 3 部下が上司と営業会議の準備をしています。
- 4 お客さまにプレゼンテーションをしています。

図 1 自作 PPT 教材(1)

図 2 自作 PPT 教材(2)

図 3 自作 PPT 教材(3)

練習1(1回目)	練習1(1回目)	練習1(2回目)
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">1</div>  </div> <div style="display: flex; align-items: center;">2</div> <div style="display: flex; align-items: center;">3</div> <div style="display: flex; align-items: center;">4</div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">1 部下が上司と__の準備をしています。</div>  </div> <div style="display: flex; align-items: center;">2 部下が上司に__の説明をしています。</div> <div style="display: flex; align-items: center;">3 お客さまに__をしています。</div> <div style="display: flex; align-items: center;">4 部下が上司に__のあいさつをしています。</div>	<div style="display: flex; align-items: center;">1</div> <div style="display: flex; align-items: center;">2</div> <div style="display: flex; align-items: center;">3</div> <div style="display: flex; align-items: center;">4</div>

## (2) 表現力問題（話し方理解）：セクション 2

問題を解くためのポイントは、設問の状況を的確に捉えて登場人物の関係性とビジネス敬語表現を聴き取る必要がある。

## (3) 聴解問題（会話理解）：セクション3

問題を解くためのポイントは「ことばとことばの単純なマッチングの問題。その部分を聞き逃さないようにすることが肝心。」（加藤 2016：87）である。

## 5. 解答データ抽出と考察

下記の表はセクションごとの聴解回数1回目（pre）と2回目（po）の解答結果であり、表中の囲みは正答を指している。なお、選択項目の順は1回目に照らして2回目を並べ替えたものであり、その平均値（表1－2）を表したのが図4～図10（縦軸は人数、横軸は%）である。この数字を基にして選択した原因を探る。

## (1) 描写問題（場面判断）

表1－1 解答結果（セクション1）

（単位：人）

問 回数	1回目	2回目
練習1	1 (1) 2 (9) 3 (4) <b>4 (11)</b>	1 (0) 2 (1) 3 (0) <b>4 (24)</b>
問1	1 (6) 2 (1) <b>3 (17)</b> 4 (1)	1 (2) 2 (0) <b>3 (23)</b> 4 (0)
問2	1 (6) <b>2 (8)</b> 3 (9) 4 (2)	1 (0) <b>2 (21)</b> 3 (4) 4 (0)
問3	<b>1 (22)</b> 2 (2) 3 (1) 4 (0)	<b>1 (24)</b> 2 (1) 3 (0) 4 (0)
問4	1 (2) <b>2 (15)</b> 3 (8) 4 (0)	1 (0) <b>2 (23)</b> 3 (2) 4 (0)
問5	1 (6) 2 (3) <b>3 (14)</b> 4 (2)	1 (3) 2 (0) <b>3 (22)</b> 4 (0)
問6	1 (1) 2 (4) 3 (3) <b>4 (17)</b>	1 (0) 2 (0) 3 (0) <b>4 (25)</b>

表1－2 平均値（セクション1）

pre_練1	po_練1	pre_練1(%)	po_練1(%)
1	0	4%	0%
9	1	36%	4%
4	0	16%	0%
<b>11</b>	<b>24</b>	<b>44%</b>	<b>96%</b>
25人	25人	100%	100%

pre_Q1	po_Q1	pre_Q1 (%)	po_Q1 (%)	pre_Q2	po_Q2	pre_Q2 (%)	po_Q2 (%)
6	2	24%	8%	6	0	24%	0%
1	0	4%	0%	<b>8</b>	<b>21</b>	<b>32%</b>	<b>84%</b>
<b>17</b>	<b>23</b>	<b>68%</b>	<b>92%</b>	9	4	36%	16%
1	0	4%	0%	2	0	8%	0%
25 人	25 人	100%	100%	25 人	25 人	100%	100%

pre_Q3	po_Q3	pre_Q3 (%)	po_Q3 (%)	pre_Q4	po_Q4	pre_Q4 (%)	po_Q4 (%)
<b>22</b>	<b>24</b>	<b>88%</b>	<b>96%</b>	2	0	8%	0%
2	1	8%	4%	<b>15</b>	<b>23</b>	<b>60%</b>	<b>92%</b>
1	0	4%	0%	8	2	32%	8%
0	0	0%	0%	0	0	0%	0%
25 人	25 人	100%	100%	25 人	25 人	100%	100%

pre_Q5	po_Q5	pre_Q5 (%)	po_Q5 (%)	pre_Q6	po_Q6	pre_Q6 (%)	po_Q6 (%)
6	3	24%	12%	1	0	4%	0%
3	0	12%	0%	4	0	16%	0%
<b>14</b>	<b>22</b>	<b>56%</b>	<b>88%</b>	3	0	12%	0%
2	0	8%	0%	<b>17</b>	<b>25</b>	<b>68%</b>	<b>100%</b>
25 人	25 人	100%	100%	25 人	25 人	100%	100%

図 4（練習 1 の 1 回目と 2 回目）

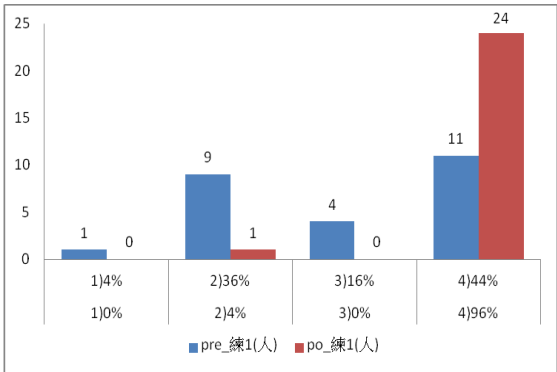


図 5（問 1 の 1 回目と 2 回目）

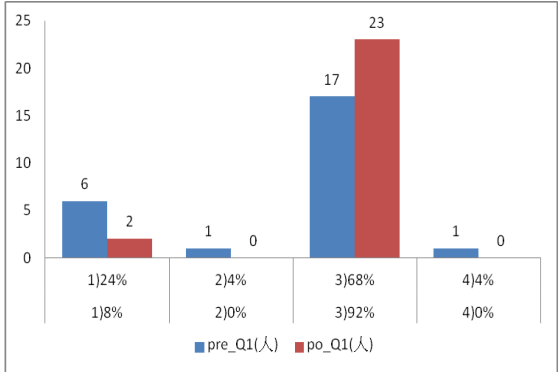


図 6（問 2 の 1 回目と 2 回目）

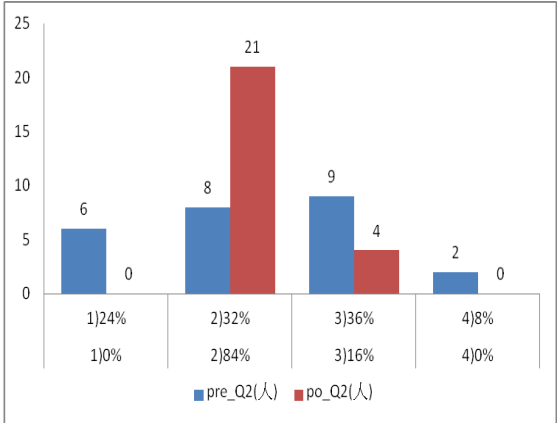


図 7（問 3 の 1 回目と 2 回目）

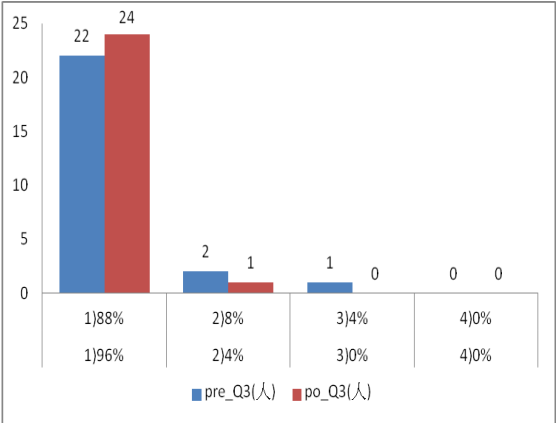


図 8（問 4 の 1 回目と 2 回目）

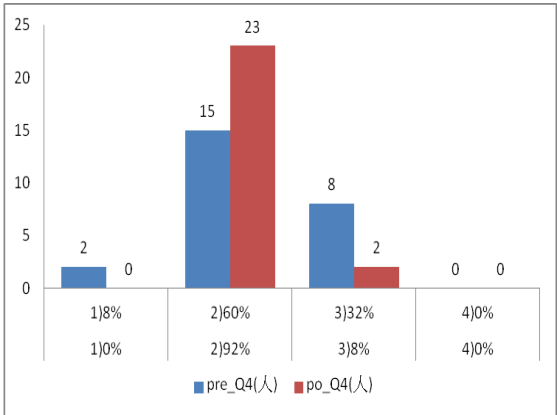


図 9（問 5 の 1 回目と 2 回目）

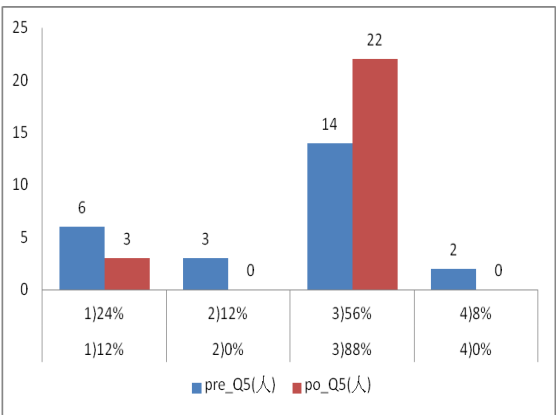
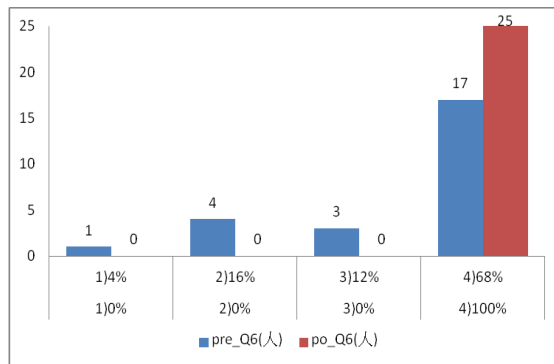


図 10 (問 6 の 1 回目と 2 回目)



### 5. 1 分析と考察 (セクション 1)

下記の分析では多くが選ばれた項目を取り上げる。なお括弧書きはポイントを指す。太黒字は 2 回目 (po) の結果と考察及び筆者の提案である。

練習 1 : 2 「商品企画」 (36%) と 3 「プレゼンテーション」 (16%) と 4 「転勤」 (44%) を選んでいる。2 と 3 を選ぶのは 4 「転勤」 の意味合いが理解できないことによる。(語彙の意味)

1 人が 2 を選んだため、「転勤」の語彙を修得すること。

問 1 : 1 「プレゼンテーション」 (24%) と 3 「概要」 (68%) を選んでいる。1 と 3 を選ぶのは両者語彙の意味合いが理解できないこと又は混同による(語彙の意味・混同)。1 を選ぶのはプレゼンテーションの仕方・様子を知らないことによる(形式)。

写真から自社社員か他社社員かの判断ができない(内外の判断)。

2 人が 1 を選んでいるため、仕方・様子を修得すること。

問 2 : 1 「梱包」 (24%) と 2 「印刷」 (32%) と 3 「コンピュータ」 (36%) を選んでいる。写真にあるコンピュータに注目してしまうと、3 を選ぶ。

4 人が 3 (16%) を選んでいるため、後続の語彙「組み立て」を修得すること。

問 3 : 1 「名刺」を「交換する」 (88%) と 2 「報告書」を「渡す」 (8%) という動作である。写真から渡す物の大きさ、この場合小さいので「名刺」と判断しなければならない。

1 人が 2 を選んでいるため、渡す物の大きさに注目すること。



問4：2「伝言」(60%)と3「アポイント」(32%)を選ぶのは、訪問時のマナーで「受付」と「アポイント」という語彙を学ぶためである。写真では男性が書いている状況なので、ここから「書く」という表現を聴き取らなければならない。

2人が3(8%)を選んでいるため、書く動作に注目すること。

問5：1「サンプル」(24%)と3「プリンタ」(56%)を選んでいる。

写真では見ている物が3「プリンタ」であることが明らかであるが、1「サンプル」を選ぶのはカタカナ語彙の意味の理解ができないからである。(語彙の意味)

3人が1を選んでいるため、写真を的確に捉えることとカタカナ語彙を修得すること。

問6：2「従業員」(16%)と3「商品開発」(12%)と4「視察」(68%)を選んでいるが、写真では工場で2「従業員」が仕事をしていて、3「商品開発」しているという判断ができなくもない。ただし、スクリプトには「3人の男の人が」という文言があることからしてここを聴き洩らすと4「視察」は選べない。

語彙を修得することで4「視察」を選んだ。

上の考察から次の点が判った。

#### 1回目の問題点

- ・写真の状況から拡大解釈をする。
- ・写真の状況を的確に捉えていない。
- ・ポイントとなる語彙の意味合いが理解できずに混同している。
- ・ポイントとなる語彙の前後の表現に解釈上の誤りがある。

#### 2回目の改善点

- ・単語シートと空欄シートでの記述による短期記憶で、大半の学習者を正答に誘導できたが、100%ではない。短期記憶では正答に結びつかない場合、長期記憶が求められる。

## 5. 2 対策ポイントの提言

1回目の問題点と2回目の改善点を鑑みて、次の点を提言したい。

- 1) セクション1では、具体的にこれと判る写真の状況を用意しないと、聴き取り能力が低い場合に注目すべき表現に散らばりが生じる。また、ポイントの語彙以外にも設問項目の表現の理解が求められる。
- 2) セクション2では、敬語表現に至るためには前提となる判断材料の意味合いをきちんと理解する必要がある。今回の方法を通じて判ったのは表現を記述して覚えるだけでは当該セクションには対応できないということである。練習2の「配属」に「ご」を冠する接頭辞、また問7の「この方」のような内の人物に高める表現を使うという具合に、職場での人物という状況から高める表現を用いるという解釈による誤解を生む。このことから、まず設問の状況の意味合いを中国語訳を設けて学習者に理解させてから、状況と社会的関係に応じた敬語の持つ意味合いを理解させるという流れが求められる。
- 3) セクション3では、独白か対話かという形式にかかわらず長文を把握するための聴解能力が必要である。スクリプト文言の語彙はもちろんのこと、設問の状況内容と選択項目の意味合いの理解も求められる。

## 6. まとめと今後の課題

今回の実践授業は30人クラスでビジネス日本語の授業の一環で行った。そのためスケジュール上の制約があり、BJT 類似問題に特別に時間を割いて説明しながらシートに記述するという点では時間的に十分ではなかった。しかし、本稿で取り上げたような類似問題を解くことで、問題点が浮き彫りになり、BJT 対策の一つの方向性を示唆することができた。また、このような問題を解くことによって、実際にテストを受ける際の指標になるだけでなく、心理的な準備、テスト形式への慣れ、解き方の方略に繋がると考えられる。いずれにしても類似問題の数を増やし、それを解く練習を重ねていくことがBJT 対策としての評価と信頼を得ることができる。これは今後の課題としたい。

### 参考文献

- 赤木彌生・今井新悟・伊東祐郎・中園博美 (2013) 「インターネット受験によるBJ-CATビジネス日本語テストの開発—事前テスト実施に向けて—」 第9回OPI国際シンポジウム
- 赤木彌生・伊東裕郎・堀井恵子 (2015a) 「BJ-CAT ビジネス日本語コンピュータ適応型テスト—日本企業への就職支援—」 『グローバル人材育成とつながるネットワーク紀要』 ホーチミン日本語教育国際シンポジウム
- 赤木彌生・伊東裕郎・本田明子 (2015b) 「BJ-CAT ビジネス日本語テスト—タスク遂行型の問題項目の作成—」 第19回ヨーロッパ日本語教育国際シンポジウム

赤木彌生・伊東祐郎・堀井恵子・中園博美・小野塚若菜（2016）「BJ-CATビジネス日本語テスト—問題項目分析データに基づいたテスト構築—」『BALI-ICJLE日本語教育国際研究大会予稿集』ICJLE2016

尾崎学（2013）『符号理論による敬語表現過程の指導法の研究』致良出版社

加藤清方（2016）『B J T 商務日本語能力考試 模擬測驗與解説 改訂版』大新書局—原名『B J T ビジネス日本語能力テスト 体験テストと解説 改訂版』（2009）日本漢字能力検定協会

黄英哲（2016）「ビジネス日本語能力テストの分析と台湾人日本語学習者の受け止め方」『台湾日本語文学報 4 0 号』台湾日本語文学会

沈榮寬（2008）「BJTテストとビジネス日本語教育」『真理大學人文學報第 6 期』真理大學人文學院